

令和7年度第4回公立大学法人宮城大学評価委員会 会議録

日 時：令和8年1月22日（木）午前10時から正午まで

場 所：宮城県行政庁舎 11階 第二会議室

出席者：別紙のとおり

【会議の概要】

1 開会

2 審議

(1) 第3期中期目標期間における暫定評価について

質疑事項への回答（資料1に基づき説明）

委員間で評価が分かれた以下の項目について、重点的に審議が行われた。

項目2 大学院課程（教育に関する目標）

仮評価：C（B評価3人、C評価3人）

（伊勢委員、佐藤委員、大隅委員）充足率が80%を達成し、増加傾向にあることは評価できる。

（中沢委員）充足率が80%を超えたのは令和7年度であるが、今回は令和3～6年度実績を評価するものである。

（中島委員長）次回Bへ上がることを期待して、今回はC。

⇒C

項目9 研究

仮評価：A（S評価2人、A評価4人）

（佐藤委員）令和4～6年度で外部研究資金獲得総額が目標を上回っていることを評価した。

⇒A

項目10 教育研究環境の整備

仮評価：A（S評価1人、A評価5人）

（大隅委員）オンラインジャーナルとしてオウンドジャーナルの発行を継続している点を評価する。

⇒A

項目 1 1 地域貢献

仮評価：A（S評価2人、A評価4人）

（伊勢委員）特色ある事業を進めている。

（中島委員長）自治体との交流が多く、他大学と比較しても評価できる。

（伊藤委員）食産業学群の地域産業への貢献について、今後の活躍に期待を込めてAとした。

⇒S

上記以外の項目については、委員の意見が一致しており、異論も出なかったため、原案のまま承認された。

（2）第4期中期目標策定に向けた論点整理について

<委員からの質問・意見>

（中島委員長）少子化を見据えた大学のあり方や、教育におけるAI活用の方針を明確にするべきだと思う。

（大隅委員）DEIの推進にあたっては、女性、外国人、障害者等の様々な課題があるが、どこに重点を置くのか、方向性を整理した方が良い。生涯教育について、少子化への対応として、リカレント教育がさらに重要となってくるだろう。近年は学部の定員を減らして大学院に置き換えるという動きも出ている。また、DXの推進はDEIの推進にも寄与する。例えば、リモートワーク等の充実により、多様な人が参画しやすくなるといったことである。

（中島委員長）大学のDXとして、教育DXについても考えていきたいが何か意見はあるか。

（大隅委員）教育DXとしては、成績判定の効率化や、授業のオンデマンド化による他大学のコンテンツの活用等が考えられると思う。

3 報告（教育組織改革案について）

<委員からの質問・意見>

（伊勢委員）理系転換することのことだが、理系的な中身について詳しく教えてほしい。

（佐々木学長）建築やAIデータ活用等の理系分野がある。

4 その他

5 閉会